



○ 経験Ⅱ

1年生に先立って2年生が蓮生・まこと幼稚園に実習に行きました。その感想を読みました。1年生のものの後に2年生のものを読んでみると、1年間の学習の積み重ねというものを少し感じました。少し文面を変えていますが、私が印象に残ったものを次に紹介してみたいと思います。

もっと練習を積み重ねればもっとよいもの(人形劇)を見せることができたと思います 先生との信頼関係で子どもは素直に助言を受け止めると分かりました 事前練習のためにも余裕をもって集合時間前に到着すればよかったです 自分は改めて子どもとかかわることが好きなんだと気づきました 人形劇の中で子どもたちに問いかける場面を取り入れたけれど、子どもたちの話し声が止まらず收拾がつかない場面があり、計画をしっかりとしなければならぬと勉強になりました 子どもたちの目線に立ち、欲求を感じ取り受け止めながら、子どもたちの「世界観」を大切にしたい 初めは緊張で笑顔ができなかったけれど、できるようになると子どもたちにも楽しさが伝わり始めました 保育士さんのさりげなく的確な配慮を見させてもらい大変勉強になりました 言葉遣いや分かりやすい伝え方について勉強になりました 私も保育者になったら「こんな先生になりたい。」と実習生に思われるよう心がけたいです 人形劇中のアドリブが心配だったけれど、周りの人が話を投げかけてくれたので嬉しかったです 子どもたちが先生の真似をするということは、真似をされる自分の行動に気をつけなければならないと思いました 「～しましょう。」というような言葉遣いが難しいので普段から気をつけたいと思いました 一人ぼっちの子に声をかけて一緒に遊んだら笑顔になってくれたのでうれしかったです 運悪く実習終了の放送が流れ、子どもの機嫌を悪くさせてしまったときの適切な対応ができず、考えさせられました 子どもたちは素直で、分からないときは分からないとしっかり表現するので、言葉を聞き逃さずに受け止めたりすることがたいせつだと思いました 先生方がにこにこしてとてもいいなと思いました 遊びの時の子どもたちの想像力がとてもすごいと思いました 絵本を読んだとき、真剣に聞いてくれたので嬉しかったです 予想外の場面も多かったが今回はアドリブなどもできてよかったです できるだけ場数を踏み、子どもを理解し信頼関係をつくることのできる保育者になりたいと思います 日頃は会えない子どもたちの姿を見たら自然と笑顔になれました 気になる行動の子どもを2人見つけましたが、それぞれにどのようにかかわればよいのだろうかと考えさせられました

「～しましょう。」について… “先生” になってしまうと下記のようなことばをよく遣ってしまいます。一見ていねいな言葉遣いのようにですが。

～してあげる ～してもらいます ～してください 子どもを～へと誘導する

園よりも小学校、小学校よりも中学校、中学校よりも高等学校の先生のほうがその傾向が強いです。私は、相手が高校生であっても、「～してもらいます。」よりは「～してみましよう。」のほうがよいと思います。

学習の主体者は園児・児童・生徒なのですから。

ベテランになればなるほど改善できません。

若者には早く遣えるようになってほしいと思っています。

